



1943

女子訓練中

「石巻女子隣組員」の竹やり部隊。訓練中の様子を写したとみられる＝1943年7月30日



空襲の直後

仙台空襲の直後に、仙台市中心部の旧藤崎本館から東一番丁の北方向を写したカット。焼け残ったビルはキンピアホールで、画面を左右に走る道路は大町通という＝1945年7月10日ごろ



1945

「勝札」販売

戦費調達のための「勝札(宝くじ)」の販売を捉えた写真。仙台空襲直後だが、「勝」という字が喜ばれ、飛ぶように売れたとされる＝1945年7月26日ごろ



市バス再開

仙台空襲で焼け野原と化した仙台市内を走る市バス。市は復旧に全力を挙げ、空襲翌日に運転を再開させたという＝1945年7月15日ごろ



焼け跡復旧

仙台市中心部・東一番丁周辺の仙台空襲の焼け跡で作業する小中学生児童、生徒も学校どころではなく、復旧に追われた＝1945年7月10日ごろ

戦禍の宮城 生きる 強く

白黒写真カラー化プロジェクト

戦勝を信じ軍事費調達目的の宝くじに協力する仙台市民、1945年7月10日未明の仙台空襲で焦土と化した市内を走るバス……。河北新報が自社で収蔵する戦時中の白黒写真をカラー化すると、甚大な被害を受けても懸命に生き抜く当時の人々の姿がリアリティーを増して浮かび上がってきた。食糧難による混乱などを切り取った戦後の写真を含め、計7枚を紹介する。 (1面に関連記事)

戦後

80年



1946

食糧難続く

仙台市の中田町青年団が、現在の青葉区川内追廻地区で食糧難に苦しむ戦災者住宅地の住民に大根やキャベツなどを贈った際の一枚＝1946年7月10日



仙石線混雑

食糧難による買い出しなどで超満員の仙石線。車内はすりが心配されるほど混雑し、屋根に座ったり窓枠からぶら下がったりする乗客もいた＝1946年10月7日ごろ

白黒写真のカラー化プロジェクトに協力した有識者と戦災経験者、宮城学院女子大生は次の通り。
(敬称略)

【有識者】東京大大学院教授渡辺英徳、郷土史研究家千葉富士男、東北大史料館教授加藤諭、宮城スリパチ学会メンバー中島千鶴子、出版社「風の時編集部」代表佐藤正実

【戦災経験者】堀江俊男(仙台市太白区)

【宮城学院女子大生】下山千晴、吉田愛花、相沢七海、高木希乃花、阿久津春菜、日影海吹、下井田明々子、太田泉美、福島歩実、佐藤利音、野田京香、阿部良美、伊藤あい(他1人)